

日韓学生つしま会議

特定非営利活動法人
環境カウンセリング協会長崎
環境カウンセラー
理事 川口 孝範

〔経緯〕

平成17年度 高校生による国際交流の一環として長崎県佐世保市において佐賀、福岡、山口、長崎 4 県と韓国の高校生の集いがあり、その年のテーマが「環境における体験学習」ということで県の依頼で廃油キャンドルの製作指導をさせていただきました。

その後高校生の交流があつて大学生のは何故ないのか？ 県の環境政策課へ問いました。その時点で漂流・漂着ごみの清掃活動は存じておりました。

ですから一昨年暮れに18年度予算化されるであろうと聞き準備に入りました。

当初100名の予定が最終的に138名（応募は168名）県内9国公立4年制大学からの学生の参加を頂き実施することができました。

〔目的〕

漂流・漂着ごみによる海洋汚染の現実を知る。

共通のテーマの下GSをすることで同世代の他国の人たちとのふれあいおよび自らの手でコーディネートする。

〔現状〕

医療廃棄物

魚網、漁具

発泡スチロール

工業製品の残渣（シート）

ドラム缶

飲料缶

プラボトル

家電品

等々

[課題および所感]

漂流・漂着ごみに対する対応

対外的：国際的コンセンサスの確立（モラルの向上を含めて）

国内的：漂流・漂着ごみの位置づけ（所管を含めて）

自然の宝庫といわれる対馬がその自然に翻弄されている現実

たった一度の体験で僭越ではありますが島民の皆さんの財政的負担、苦悩が垣間見えたような気がいたします。

また、マスメディアの論調が加害者と被害者というベクトルで捉えられてるようにも見えました。少なくとも学生諸君にはその意識はありません。